おかやまＩＴ経営力大賞

ＩＴ（情報技術）を活用して業績アップや顧客サービス向上に役立てている企業・団体を対象にした本年度の「おかやまＩＴ経営力大賞」（岡山県経済団体連絡協議会などでつくる実行委主催）が決まり、20日、岡山市内で表彰式があった。大賞は１社、優秀賞は５社・団体。このうち企業関連の４社・団体の取り組みを紹介する。

英田エンジニアリングの生産販売管理システム。設計図面もデータ化されている

大賞　英田エンジニアリング（美作市三保原）

一括管理で営業力向上

自動車や建設業向けの産業用機械メーカーで、駐車場の車止め装置や粉砕機用刃物なども製造。２００８年、万殿貴志社長をトップとするＩＴ経営推進組織（17人）を発足させ、全社を挙げてＩＴ化を推進した。

受注や生産方式が異なるロール成形、駐車場装置、環境機器の３事業部が円滑に運用できる生産販売管理システムを構築。製品の設計図面データから部品表や資材発注書類を作成したり、原価計算できる仕組みも備える。

営業の進ちょく状況も全社員が専用サイトで確認でき、一人一人の働きぶりを「見える化」。見積もりの提出時期やトップ営業のタイミングなど、きめ細かなフォローが可能になり、09年に８％だった成約率は12年は15％にアップした。

万殿社長は「システム内容を検討する際に現場の意見を取り入れることを最優先にした結果、営業力が高まった。今後も改善を重ねたい」と話す。

（古舞雅子）

優秀賞

倉敷青果荷受組合（倉敷市西中新田）

作業の優先順位などを端末で確認する倉敷青果荷受組合のスタッフ

生産に導入 遅れ、欠品防ぐ

倉敷地方卸売市場（倉敷市西中新田）の荷受業者で、カット野菜の製造販売も手掛ける。２０１０年度にカット野菜の受注システムを構築して大賞を受賞。今回は生産管理にもＩＴを導入したことが評価対象となった。

生産工場にタッチパネル式の情報端末を配置し、取引先によって異なる加工の仕様や量、出荷のスケジュールをスタッフが確認。作業の優先順位を明確にすることで、出荷遅れや欠品防止などにつなげている。

野菜を量る計量器にも連動しており、加工後にどの産地の野菜は歩留まりがよいかも一目で分かる。冨本尚作青果事業部長は「データを仕入れに反映させることで食材ロスを半減できた」と胸を張る。

（古舞雅子）

小林朱雲堂（倉敷市笹沖）

墓石の見積もりなどを自動化した小林朱雲堂

短時間で墓石の見積もり

1912（明治45）年創業の仏壇仏具店。家庭に仏壇が普及して市場が成熟してきたため、10年ほど前に墓石販売に進出。昨年、墓石の見積もりなどの作成システムを導入した。

同社が扱う石材は産地別に約30種類あり、サイズやデザイン、基礎工事の方法などによっても価格は多様。従来は熟練社員が手作業で積算していたため、依頼が集中すると時間がかかっていた。

ＩＴ導入後は、経験の浅い担当者も短時間で見積もりを出せる体制に。受注後の工事の進ちょく管理もできるため仕事の流れがスムーズになったという。

岡本稔幸社長は「ベテランに頼っていた業務を標準化し、スピードアップを図れた」と言う。（長田壽司）

はるやま商事（岡山市北区表町）

商品のバーコードを読み取り精算する、はるやま商事の販売員

全国にスーツ店を約380店展開。全店にタブレット型多機能端末「ｉＰａｄ」（アイパッド）を計1200台導入し、店舗運営に活用している。

ｉＰａｄ活用しコスト削減

同社のシステムはＰＯＳ（販売時点情報管理）と連動。販売員がアイパッドに接続したスキャナーで、顧客が購入を決めた商品の値札をバーコードで読み取ると、画面に合計金額が表示され、データはレジカウンターのＰＯＳに送られる。会計の時間を半分に短縮できたほか、紙伝票の廃止などによって年間2億6800万円のコスト削減につながったという。

品切れ商品の発注にも使用。同社は「今後はカメラ機能を使い、着こなしの提案などにも活用していきたい」とする。（重成啓子）